

From JPMA

新薬開発に国境はない

売上高が増加する一方で、研究開発費等の増加により結果として減益となることもあり、それはある意味、製薬各社に共通の状況であると捉えている。研究開発費の増加は、治験の高度化や大規模な臨床試験を組むケース、さらには外部のシーズを取り込む場合など、そうした積極的な研究開発活動の結果ではないだろうか。新薬の開発に国境はなく、より良い新薬をより早く上市することが我々製薬企業の使命なのだから、製薬企業にとっては必要な投資である。



日本製薬工業協会
会長 庄田 隆

(11月17日「会長会見」にて業界の研究開発費に関する質問に対して)

日本製薬工業協会（製薬協）

Japan Pharmaceutical Manufacturers Association (JPMA)

製薬協は、病院、診療所などの医療機関で使われる医療用医薬品の研究・開発を通じて世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することをめざす、研究開発志向型の製薬会社が加盟する団体で、1968年に設立されました。

製薬協は、「患者中心の医療の実現」に向けて、医薬品に対する理解を深めていただくための活動、ならびに製薬産業の健全な発展のための政策提言などをおこなっています。

製薬協は、国際製薬団体連合会(IFPMA)の加盟団体として世界の医療・医薬に関わる諸問題に対応し、各団体と連携を図りながら、グローバルな活動を展開しています。